発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番
7140番
編集兼発行人　宮川睦男

10月分賃金は40%
中央団交27日より開始

断絶していた中央での団体交渉は二十七日から再開された。人員問題にはまだ入らず、主として賃金問題で論議しているが、会社は十月分賃金の四〇パーセント支払いを提案してきた。ますますわれわれを兵糧攻めにして、首切りを強行するハラである。会社の態度はとうていわれわれの諒解できるものでなく、白紙撤回まで闘う決意を固めなければならない。

薄弱な提案理由

二十七日午後一時より第十六回団交開始。

冒頭、会社から「この団交より平和的に早急に事態の解決をはかりたい」旨の発言があった。

組合は、団交開始中、指名解雇など出さないことが約束されるかと追及したところ、諒解の旨が回答あったので、次回団交より細部に亘る交渉を行うことにして、この日の団交を打切った。

翌二十八日午後二時より団交再開した。

まず、組合から賃金関係について追及した。

十月分賃金で提案

十月二十九日午後二時より第十八回団体交渉をもった。

まず、十月分賃金の支払いについて会社の意図を質問した後、具体的な提案内容に入った。

(1) 十月分賃金は十一月の所定給料目に、十月支払いの減額四〇パーセントを支払い、月末分うち四〇パーセントを支払いたい

(2) 諸賃給五〇パーセント固定化については、総額三・七〇〇万円（組合員一カ月一人当り九四一円）の削減をネラッているので、これは作業意欲を低下させるばかりでなく許せない旨を反撃した。

(3) 時間外給与の削減についても反論したが、会社は他社との関連、経理上の理由をあげるのみで、理由の薄弱な点をサラケ出した。

(4) 保育園を独立採算にした場合父兄の負担額について会社の推定金額を提出させた。

(5) 薬価免除は各山の取扱い現状につき質問。

以上でこの日の団交を打切った。

三作問題で即答さける

十月三十日午後二時より第十九回団体交渉をひらく。

会社側から十一月支払い賃金について昨日につづき具体的に提案された。

(1) 十一月所定支払日に四〇%（前月末払分）を支払う。

(2) 十一月末支払いについては四〇%を支払う。

福利関係については四・六協定で不満ながら諒解したにもかかわらず、さらに新たに提案することは、あまりに組合を無視したやり方であり、諒解することはできない。

三作問題について労働協約との関連を追及したが、会社は十分検討をしていないので即答を後日にまわしこの日の団交を打切った。

差入れする家族たち
22名の同志は元気で出勤

鉄条網の中にとじこもったまま、製作支部の組合員たちは、この三十一日で、すでに八日目のろう城を迎えている。職制やウラ切り幹部の圧力をはねのけて闘っている同志二十二名は、毎日主婦会を初めとし、執行部や組合員有志の激励と拍手の中で出退勤し、退勤後は本部に集つてますます結束を固めている。復帰を呼びかけて空からも二十六、三十日の両日にビラをまくなど、忍耐強い説得と暖かい手をさしのべている。

二十四日の分裂いらい、ろう城は今日までつづけられている。組合員は事務所地下室と各職場詰所に寝泊りしているが、家族たちは夫の身を案じて、朝夕門外までかけつけ面会したり、差入れするなどまさに労働都市大牟田の悲劇？が演じられている。

正門はじめ通用門にはいまだにいかめしく鉄条網が張られ、監視のため行動隊員たちが見張りに立つている。

組合本部では二十五日夜、銀水社宅に二五〇名を派遣した。ここには、分裂に反対し「正しいことは正しい」と固い信念をもつて闘つている組合員が五名おり、この人たちと家族を、敵の圧力から護るために警戒にあたつた。

いらい社宅西側の入口には天幕が張られ、「銀水地域分会連絡所」が設けられて、各支部から交替でつめかけている。

心なき雑言

警戒は午前八時から午後十一時ごろまで毎晩行われており、二、三十名の組合員、主婦がこれにあたつている。

ところが、三鉱労組のデモ隊が、銀水社宅等で、留守を守る奥さんたちを「イジメ」ているというデマが流され、そのため製作労組なる謀略をしめた行動隊員が、毎日午前中自転車で三十名ちかくが社宅内をデモつている。

現在、西側出入口と、売店前で警戒に当つているが、社宅事務所には毎日脱退組合員たちが三十名ぐらいつめている。この人たちには食糧品がどこから来るか分からないが、脱退派の主婦たちが炊出しに当つている。

一方、あくまで分離に反対して闘う二十二名は、あらゆる圧力をはねのけて、連日出退勤しているがこの人たちの入門、出門に、同じ労働者でありながら唾棄したくなるような言葉を投げつけている製作組合員がおり、何も知らないで集つてみている市民たちの間に、眉をひそめさせている。

三十日からは主婦たちがこの仲間の出退勤にかけつけ、激励と拍手で力づけ、労働者としての誇りをたたえている。

退勤後は全員組合本部に集つていよいよ近づいた決戦への決意を固め合つている。

三鉱の闘いが負けたら、日本中の労働者が負けることになるといつて、そのため炭鉱でない他の労働者も共闘を組んで総資本と闘かおうとしている。

だから現在の「分裂」の状態を喜んでいるのは、会社側と資本家だけである。もちろん、利敵行為で組合員をセン動したウラ切り幹部もホツとして喜んでいる。

一時的に自分の意志に反する行動を強制されている多数の人々は必ず、私たちと握手することを信じて、こんども復帰運動がつづけられていくことになつている。

本社で団交開く

分裂と同時に懲戒委員会も急きよひらかれ、毎晩遅くまで調査をすすめていたが、ようやく結論に達し裁定を発表する運びになつたもようである。労働者でありながら労働者をウラ切つた者に対してはあくまで憎まなければならない。

本部では製作問題について二十九日本社第一会議室で団体交渉を開始した。（略）

退勤する22名の同志を励ます主婦（通用門前で）

裏切り幹部の組合旗侮辱

製作支部組合員は現在なお会社と結託した裏切り幹部と職制の威圧の中で、家に帰りたくとも自由に帰られず鉄条網の中で十月二十四日以来のろう城を続けている。

われわれはこのことについて同情にたえない一面を感ずるが、暫らくこのことは置くとして、十月三十一日にわれわれは組合結成以来労働組合として、また労働者として絶対に耐え難い屈辱を受けた。

二十二名の組合員が頑くまで会社と裏切り幹部の合作による「強制脱退」といやがらせその他の妨害をハネのけ就労していることは別掲の通りであるが、執行部や主婦会や組合員有志は、勇敢に闘いつづけているこれらの同志を激励する意味をもつて毎日の出退勤時間にかならず通用門まで出向いているわけである。

だが、職制と裏切り幹部は先頭に立つてこの出退勤時の送迎に対し目にあまる暴挙を行つており、

前進
組合旗守り不動の団結を!!

その行動はまるで糸を切られたタコのように日毎に止まるところを知らない。同志が一人づつ縦隊で一歩門に入ると、ピケ破りの警官隊よろしく人一人やつと通れる人垣の「トンネル」をつくり、肩りそう言と腕力沙汰に及ばんばかりのまつたく気違い沙汰としか思われない状況を見せている。

当日、かれらは、われわれの組合旗である三鉱労組製作支部旗数十本を竹竿にさかさに結びつけて内側から通用門にズラリと立てかけ、第三者を含んだ多数の眼前でついにはバリケードの鉄条網に旗を引かけ引裂くという暴挙を敢えて行つた。

もちろん、このような行動は徹底的な裏切り幹部の指導・せん動による一部組合員の盲従であるとしか考えられない。

しかしながら、たとえどのような立場にあろうとも、国旗はその国民のシンボルであり、赤い組合旗は国境を越えた万国の労働者の「団結」のシンボルであるはずで労働者なら絶対にけがしてはならない神聖な旗なのである。

われわれは組合旗を守り抜こう

しかるに、裏切り幹部に迎合しかれらを合法化する手ぐちの中に三鉱労組の「有志」という名による「激励文」などが、製作所構内に掲示されているとのことである。

それには「製作労組の専断に徹意を表し、会社と共に発展することを祈り協力を惜しまない」という趣旨がもられているそうである。

もちろん、われわれは会社との「アベツク脱退」という表現につくされるこの事態であるから、このような「激励文」自体が「つくりごと」であるとみるが、同時に三鉱労組内部に「敵の魔手」の及ぶことを警戒せざるを得ない。

裏切り幹部については、近く「懲戒委員会」の断が下されるであろうが、会社と通謀して組織に敵対する「分裂主義者」の暗躍は、懲戒委員会を待つまでもなく、日常の職場・地域活動の中であくまで「未然」に防ぐことが先決であることを敢えて訴える次第である。

三池製作所長に訴える

製作支部　蓮尾朝男

十月二十四日、三池製作所では三鉱労組を脱退手続きした千四百余名の方達が三池製作所労組を結成しそのまま、工場に宿泊するという未曽有の事態がおこりましたこのことをどうお考えになつていますか。

林所長、貴方は私が二十五年前徒弟として入社した当時、徒弟の教育を担当された恩師でありますが。

若き日の林先生は鑄物工場の係員をされていましたが、その学究的態度は実に立派で、私達徒弟の尊敬のまとでありました。

先生は「金属材料」について講義を担当されていましたが、講義の内容、態度、実習の指導、テキストの作成等その一挙一動が科学者として、学究者として、人間としての林さんをそのまゝ「人格者」としてみんなが尊敬し、また現在まで尊敬し続けた方であります。

几帳面に作成されたテキストはあの忌わしい戦争さえなかつたら私の本棚に今もなお保存されていたことでありましよう。けれども不幸にして空襲をうけ灰となつてしまつたのも残念なことでした。

また、課外で指導して頂いた柔道も忘れることはできません。

当時五段で柔道部長をされていたと憶えていますが、けいこ着をつけて道場で先生に指導して頂いた頃の体温が、今も私の体の中に流れつづけております。

戦争のため私達にも連日残業を命じられ、柔道にも精進出来なくて残念でしたが、先生に教えて頂いた頃の私達は強く正しい体と精神をきたえられ、そのほとんどが大東亜戦争に従軍し、終戦とともに生産現場に復帰し、敗戦後の日本を建てなおそう、産業を復興しよう、製作所を復興しようと毎日毎日がんばつてまいりました。

このような立派な人格高潔な林先生が、平賀先生に続いて二人目の製作所生えぬきの所長として昇進されましたときには、本当に私たちは喜びあい、私たち一同教えをうけたものは、誇りとさえ考えました。

林先生、こんなに尊敬していた先生が、この十月二十四日の製作所のような事態についてどう考え所長としてどう処置されたのでしようか。

先生は三井鉱山の機構の中で三池製作所長として、八月十四日三池主婦会が賃金遅払いについて抗議にまいりましたとき、「社長命により各事業所、鉱業所の所長や夫々の責任者は大衆の前に立つて思つていることを、どしどし出し合つて討論し、団結を固めようではないか。

林先生、こんなに尊敬していた先生が、この十月二十四日の製作所のような事態についてどう考え所長としてどう処置されたのでしようか。

先生は三井鉱山の機構の中で三池製作所長として、八月十四日三池主婦会が賃金遅払いについて抗議にまいりましたとき、「社長命により各事業所、鉱業所の所長や夫々の責任者は大衆の前に立つて

に六項目について会社と交渉することを決定し、交渉した結果、組合の要求が大体了解点に達しているという話でありますが、三池製作所労組結成以前に団体交渉がなされているとすれば、労働協約に反しているとおもいますがどうでしようか。もし交渉していないとすれば、製作所の組合員の方はなぜ工場に宿泊しているのですか。

次に中央の第二次再提案についての団体交渉において、三井鉱山から三鉱連に提示された中に、三池製作所の分離についての提案がありますが、中央で交渉している事項を、組合が会社提案を拒否しているからといつて、山元で交渉することは正常なルールであるでしようか。

林先生、協定を順守し、信義を守ることについては人一倍信念の固い林先生が、所長としてこのように協定やルールを破つてしまわれるとは考えられないし、社命による労務担当者の意見が強く出され製作支部の脱退を援助されるとすれば、現場の組合員の工場宿泊には所長も同意されていることでしよう。

そうなると、私たちは組合活動に会社が援助されることは法的にも疑義があるのではなかろうかと心配していますが、先生はどうお考えになつていますか。

林先生、こんどの事態を法的にまた協約の上から、労資のルールから間違つた点があるかも知れない。正当性、不当性を論する以前に「社命だから仕方がない。本店の指示である」とか、先生は技術屋だから法や協定は労務屋に任せているといわれるのですか。

いずれにしても、事態解決のための努力をお願いします。私と同じように三鉱労組を脱退せずにいる二十数名だけでなく、工場に宿泊しまたは各地域で活動している千四百名余りの組合員は、一日も早く平常に復帰する日をまつているのです。

寒空に家庭をまもつている奥さんがたはもとより、父の帰りは何時の日と待ち続ける子らにお土産としてマンジユウの一包もつて今日にも帰れるように会社側として、所長として尽力してくださるように重ねてお願いいたします。

はならないと指示されている。社長の命令や指示が下部で遵守されない、まもられないようになつたら会社はつぶれるであろう」とおつしやつて頑として所長室から出られなかつたと、きいております。

私たちは抗議をする側に立つておりますけれども、先生の態度は所長としてはそうなのかと思いましたが、このように社命を遵守される林所長があればこそ、一時は毎期二億円もの赤字を出していた製作所が、漸次好転したのだと信頼いたしておりました。

しかしながら、林先生、この度の三池製作所の多数の三鉱労組脱退は、三鉱連と三井鉱山で協定した労働協約による場合、どうお考えになりますか。製作所では九月